

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601811
法人名	医療法人八十八会 ツジ胃腸科医院
事業所名	グループホーム こすもす (ユニット名 1F・2F )
所在地	久留米市上津町字下千束1217番地1
自己評価作成日	令和元年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和元年12月3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、医療法人を母体とし、老健・ケアハウス・小規模・グループホームがあり、夏祭りや毎月のお茶会等に参加をし、入居者同士の交流を深めています。  
ホーム周辺には公園があり、地域住民の散歩コースにもなっており、朝・夕挨拶を交わしています。緑豊かで広々とした敷地内には畑もあり、季節の野菜を植え収穫時には食卓に並び、皆様に喜んで頂いています。  
また、2フロアを職員が行き来する事でホーム全体で入居者のレベルを把握し、ケアやレクリエーション等を話し合い支援に繋げています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の中にあり、2階建ての2ユニットの事業所である。広大な敷地には畑を有しており、敷地横の道路は地域の方々の散歩コースで、挨拶を交わしたり、畑での植え付け時期を教えたり教えられたりしている。さつま芋や野菜など職員が収穫し、利用者は職員が収穫の様子を見学しながら共に楽しんでいる。収穫物は食卓の食材として料理に取り入れている。ベランダからは大きな慈母観音が望められ、利用者の癒しとなっている。毎月、作業療法士の助言を受けて、リハビリを通して自立した生活、体力が低下せず維持できるよう取り組んでいる。作業療法士から利用者の介助の仕方を専門的に指導を受けており、安全な移乗方法を職員間で統一している。地域の夏祭りやどんど焼き、花見など行事情報を受けて参加したり、事業所周辺の掃除を定期的に行っており、地域との密接な交流が行われている。地域密着型事業所としてますますの発展が期待できる事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は毎日申し送り時に唱和し、職員全員で共有している。理念の中に地域の力とあるが、これは地域との交流の中、絆を深めるという意味です。	理念をリビングに掲げ、入職するときに理念のできた経緯について説明している。毎日唱和することで職員に意識付けて共有している。職員は、利用者の気持ちや思いを尊重して接していきたいと思いながら日々支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会より市政便りや校区便りをもっており情報は得ている。地域行事のお誘いもあり参加している。ホームの行事も声かけを行っている。	自治会に加入しており、町内費の支払いの際、地域の夏祭りや花見などの案内がある。どんど焼きの時は地域の方がしめ縄を取りに来られ、また、職員は餅などを持っていき一緒に焼いている。その様子をベランダから見ることができ、楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流会に参加し、介護保険の仕組み等、説明を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、ご家族、自治会長、民生委員、近隣住民、市役所、抱括センターに参加して頂き、日々の様子、ホームの取り組み等報告し、意見・助言を参考にサービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。家族から水害の心配が出ていたため、自治会長・近隣住民の方より、地域的に水害の心配がないことが説明され、家族の安心を得る等、意見を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題があれば、その都度相談し助言を頂いている。運営推進委員会にも参加してもらい、毎月介護相談員の訪問も受けている。	事業所で分からないことがあれば、その都度、市の担当者に電話で尋ねている。利用者の点滴が終わった後の行為が、医療行為に当たるかなどを尋ね、助言を受けたことがある。介護保険制度の内容で必要な書類の説明を受けることもあり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し伝達講習を行う事で全職員の理解に努めている。ミーティングや申し送りの中で、身体拘束に繋がりがちな事について話し合い、防止に努めている。	外部研修に参加し、月に1回のミーティングの際に伝達講習を行っている。参加できない職員は、回覧などで確認をしている。職員は、身体拘束をしないケア、言葉づかいに意識をもって日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修後、勉強会を行なっている。日頃より言葉のかけ方、対応の仕方等、虐待に繋がらないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、伝達講習を行なう事で全職員へ周知している。ミーティングでも勉強会を行ない、制度について理解を深めている。	権利擁護について外部研修に参加し、職員はミーティングで伝達講習を受けており、制度について理解している。利用者で、成年後見制度の利用にあたって説明まで行ったが、利用まで至らなかった事例がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに時間をかけ説明を行ない、理解し納得をして頂いている。疑問点などにもその都度説明を行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居様や家族が遠慮せず意見を言えるような環境や関係作りを行なっている。苦情窓口としてホーム内に苦情箱を設置し、公的窓口を重要事項説明書に記載し説明している。市の相談員も受けている。	苦情箱を設置しているが入ることはなく、家族の訪問時に意見を聞き取っている。家族会の案内を出して開催している。家族より、なるべく今の状態を維持してほしい。計算問題や何でもさせてくださいとの要望がある場合は、介護計画に取り入れて利用者を支援している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の会議にミーティングで出た意見や要望を提案し、業務改善・向上に努め、意見を反映できるようにしている。	管理者は、職員の困りごとや相談はいつでも聞けるようにしている。炊飯器の劣化があったので、新しく購入し、炊飯器が新しくなったことでご飯の味が美味しく変わり、利用者からも喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	奨学金制度があり、育成やキャリアアップに繋げている。産休・育休もとりやすい環境にある。不定休であるため、出来る限り個人の予定を配慮した勤務表の作成を行なっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり特に制限はない。職員はそれぞれの得意分野を生かし勤務している。又社会参加や休みが必要な時は、勤務の調整を行なっている。	法人本部が職員を採用し、採用に当たっては資格や年齢制限はない。法人内の異動は職員に合った部署への異動であり、職員の希望を取り入れた勤務体制を取っている。趣味や特技が活かされており、働きやすい職場環境である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外内部の研修に参加し、学ぶ機会を設けている。ミーティング・申し送り等で、日頃から話し合っている。職員同士で注意し合う事もある。	利用者と親くなりすぎると言葉使いが乱れがちになるので、ミーティングの際に個人的に注意するのではなく、職員全員に言葉づかいについて注意するように伝えている。年に1、2度接遇のアンケートを取り、ミーティングの時に反省会を行い、利用者の人権を尊重する取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加して、ミーティング時に報告するようにしている。新採用職員は、定期的に自己評価してもらい、ケアの実際と力量の把握に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会や地域密着型交流会に参加をし、お互い情報交換を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご本人・ご家族と会い情報収集に努め、不安や訴えを受け止めニーズの把握を行い、入居前に職員全員が統一したケアができるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前にキーパーソンやご家族から不安や要望について情報収集を行い、ニーズの把握に努めケアプランに反映できるように関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の求めに応じて、職員間で話し合い検討している。必要に応じて本人に合ったサービスが提供できるように、他機関とも連携を図るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間や空間を共にする事で、お互いの関係作りに努めている。全てにおいて手伝いをするのではなく、出来る事を引き出すように支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診後、状態に変化があった時は、その都度状況を伝えている。ご家族の協力を頂き外出の機会を作り、又家族会や行事などに一緒に参加して頂く機会も作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、慣れ親しんだ家具などを搬入・配置している。友人・知人の面会時には心地良く過ごして頂けるように支援し、入居者が希望する場所にドライブに行ったり、買い物にも同行している。	法人内系列の施設でお茶会が毎月あり、そこに参加することで以前当事業所に入居していた馴染みの利用者と会うことができる。利用者が希望すれば、自宅等へは家族の送迎や職員の同行で、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションにより、入居者同士の交流が図れるようにしている。孤立した状況を作らないように、職員が橋渡しを行い交流を楽しんで頂いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者のところへ訪問(入院中の病院や入所している施設への訪問)したり、入居者同士やスタッフ共々関係が続くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や会話・個人面談などでご本人の意向の把握に努めている。職員間でも情報を共有し、思いの確認・検討を行っている。困難な場合は本人の状態観察と家族の意見を取り込みケアプランに活かしている。	3ヶ月毎に計画作成担当者が利用者の部屋で個別面談の時間を設けており、意見や意向を聞いている。日頃の生活の中での気づきも職員間で共有している。意思表示のできない利用者は表情や仕草、家族からの聞き取りで本人本位に検討している	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の馴染みの物を持ってきていただき、これまでの生活に近い環境になるように努めている。ご家族やご本人から情報を聞き、安心して生活していただけるように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録に残し、皆が把握できるように取り組んでいる。ミーティングや毎日の申し送りの中でも情報交換を行ない、状況把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望やご家族の意向を伺い、反映出来るような計画を立てている。3ヶ月毎にモニタリングを行ない、日頃のご本人の様子などを職員間で話し合い、またその他の関係者意見を踏まえ、利用者本位の介護計画作成に取り組んでいる。状況変化のある時は随時見直しを行なっている。	職員が本人の変化や意向を確認した時は日誌に記録し、申し送りで共有している。協力医やリハビリ専門職、職員、家族等からの意見や要望を計画作成担当者は集約し、現状に即した介護計画を作成している。状態変化がある時や3ヶ月毎にモニタリング・評価し、介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化や気付きは些細な事でも記録し、申し送り時に報告し情報の共有を行ない、ケアプランに活かしている。現状を把握する為にSOPにて記録を行なっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な一日の流れはもっているが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮し本人の気持ちを尊重し、個別性のある柔軟な対応をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加しており、地域行事に参加する事で地域の方々との交流に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時は家族か職員が同行している。協力医による歯科・眼科・心療内科の往診もある。	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力医へは職員が送迎し、他の医療機関へは家族が受診に同行して、受診の結果は互いに確認し合い、共有している。緊急時の対応は事前に家族へ確認する等、必要な医療が適切に受けられるよう支援している	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制(週二回1時間ずつ)をとっており、日々の健康状態を報告している。急変時にはその都度報告し指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を通して、家族や病院関係者との連絡を随時行ない、情報を共有している。退院後は入居できるように対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する説明を行ない、同意書にてご本人・ご家族の意向を確認している。身体状況が低下した場合は、ご本人・ご家族・主治医と相談しながら、出来る限り希望に沿い安心して頂けるように最善を尽くしている。	利用契約時に終末期に向けて事業所のできる事を説明し、重度化した時の意向について確認している。状態の変化に応じて、家族やかかりつけ医、職員間で話し合い、方針を共有しながら支援している。事業所での看取りは減っているが、希望が有れば、宿泊や食事の支援体制は整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアル・連絡網を整備し、訓練や勉強会も行なっている。AEDの設置もしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署への協力を依頼し避難訓練・通報訓練・消火器の使い方等を、入居者と共に進めている。日頃より避難訓練場所についても指導し周知している。又、自治会への協力もお願いしている。	毎年消防署立会いの避難訓練と、事業所での訓練を行っている。今年は水害想定で利用者を2階へ誘導訓練を行った。職員は災害別の避難場所や方法を把握し、災害へ備えている。各マニュアルは作成している。作成時期が不明確で、見直しには至っていない。	災害時対応マニュアルについて、職員と話し合う機会を持ち、事業所の現状に即した内容になることや、作成日を記載し、適宜見直すことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握しプライドに配慮した言葉かけを行なっている。職員は不適切な言葉かけや対応をしていないか、注意し合い話し合っている。特に入浴・排泄等では羞恥心に配慮した対応をしている。	職員は利用者それぞれの心身状況に応じた対応を意識し、個人の特性に配慮した声掛けや支援を行っている。記録物は訪問者の目に入らないように保管し、プライバシーを損ねないよう留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを聞き、自分で選択できるように支援している。表出が難しい方は、表情や態度から思いを見極め自分で選択できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活スタイル・ペースを尊重し、優先するように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはできるだけ本人に選んで頂いている。化粧品も希望により購入している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや後片付け等、役割を持って頂き出来る事をして頂いている。食事は職員も同じテーブルで音楽や会話を楽しみながら摂っている。ホームで作った野菜と一緒に収穫している。	法人の栄養士が献立を立てており、事業所の台所で毎食職員による手作りとなっている。リビング・ダイニングには調理の音やにおいがあり、利用者はできあがりを楽しみにしている。敷地の畑でできた野菜などは、季節に応じて収穫し、旬の食材を取り入れて、食事を楽めるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士の指示のより、個人に合わせた食事提供を行なっている。制限のある人には献立を変更している。毎日、食事量・水分量を個別に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を行ない、口腔内の清潔に努めている。個人に合わせ液体磨きも使用している。又、歯科往診も行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行なっている。	利用者それぞれの排泄リズムを確認しており、昼夜を問わず本人のタイミングでトイレへ案内している。パットの置き場所を工夫することで、一人で排泄の一連の行為を済ませることができる等、自立にむけた支援を行っている	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分補給にも気がけている。運動・散歩を取り入れ体を動かし、入浴時には腹部マッサージを行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や健康状態に合わせて日曜以外毎日行なっている。体調不良等で入浴できない場合は、清拭・着替えを行ない清潔保持に努めている。	季節に応じて、快適に過ごせるように入浴の回数を増やしている。入浴の準備から入浴後リビングへの案内まで、一人の職員が個々にそった支援をしている。入浴を拒まれる時は無理強いせず時間を置いたり、翌日に入浴できるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調に応じて休息して頂いている。夜間は寝具の調節や室温に気かけ、安眠できるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、いつでも職員が確認できるようにしている。服薬時には本人に渡し服用を確認している。体調に変化があれば、速やかに看護師へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・編み物・草取りや水やりなど、一人ひとりに合った出来る事をして頂き楽しんでもらっている。散歩やドライブの機会を設け、気分転換の支援を行なっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見やドライブに出かけたり、近所への散歩や買い物に出かけている。外出途中、軽食をするなどしている。ご家族にも協力をお願いし、外出の機会を作ってもらっている。	日頃は近所への散歩や敷地の畑など、気候が良い時期は外出し、桜や菖蒲、紅葉の見物、初詣にも出かけている。普段は行かない花見等は、家族へも予定を伝え、一緒に出掛けられるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を自分で管理されている方もいる。買い物の際も自分で支払いができるように支援している。自己管理ができない方はホームでお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話してもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾りつけを行ない、行事の写真も掲示している。台所からは、調理の音や匂いがあり生活感が漂っている。	事業所へ一歩入るとアロマの香りが優しく漂う広々とした明るいリビングがあり、利用者は思い思いの場所で、くつろいでいる。共用の場所は整理整頓され、利用者の往来を妨げないよう配慮しており、居心地よく過ごすため湿度や音量も快適となる様工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂が一体化しており、一人ひとり思い思いに過ごせるように支援している。入居者同士では誘い合い、同じ場所で談笑されている事もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた物を持参してもらうように説明している。使っていた家具や人形・手芸品・植物などをおいて、安心して暮らせるよう工夫している。	居室はベッドとタンス、靴箱、机が設置され、机の上には、本人が好きな置物や使い慣れた趣味の道具・作品が飾られている。本人や家族の思い思いに配置されており、本人にとって落ち着いて過ごせる、居心地の良い空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のできる事やADLの状態を把握し、環境を整え、自立した生活が送れるように工夫している。		